

憲法九条は 私たちの 安全保障です。

梅原 猛
大江 健三郎
奥平 康弘
澤地 久枝
鶴見 俊輔
池田 香代子
金 泳鎬
阪田 雅裕

“積極的平和主義”？

「平和」に
形容詞はいらない！



わかる、使えるくはじめの1冊！
岩波ブックレット

定価（本体520円＋税）

南知多町名誉町民 「九条の会」呼びかけ人

梅原 猛さんの言葉（岩波ブックレットより）

戦中派としての訴え

梅原猛

私は今年（二〇一四年）、教えの九十歳になりましたが、われわれ大正十四年生まれは徴兵検査を受けて入営し、軍隊生活を送った最後の世代です。私より数年以上の先輩は多く戦場に行き、帰らぬ人となりました。当然、私も死を覚悟し、人生は二十五歳までであるという思想を受け入れざるを得ませんでした。

広島と長崎に原子爆弾が投下され、日本が敗戦の運命を受け入れたときが、私にとって解放のときでした。戦死者や原爆の犠牲者の上に自分が生きていることに強い罪悪感を抱きながらも、この平和な時代、自分の人生をしっかりと生きようと私は決意したものです。それから七十年、自分の人生を精一杯生きてきたと思いますが、その晩年にまた黒い雲がたち込めてきたようです。安倍首相の動きをみると、彼には祖父の岸信介元首相の霊が乗り移って、平和憲法を否定し、日本を戦前の日本に戻そうとしているようにしか思われません。「九条の会」の呼びかけ人のなかでも、軍隊生活を経験し現在存命なのは鶴見俊輔さんと私だけです。この戦中派の辛い思いを、戦争を知らない人にも伝え、九条を守る必要性を訴えていきたいと思えます。